おもてなしnpmライブ ラリをつくろう

@Himenon

自己紹介

- 大学院まで物理専攻
- 社会人2年目
- 銀座にいるフロントエンドエンジニア
- サポーターズでは何度か話している

好きなもの

- カメラ / バイク (乗りたい)
- ライブラリを探す(最近はnpm系)

今日話すこと

- 1. 開発環境について
- 2. npmライブラリとは
- 3. まずは作ってみましょう
- 4. 「おもてなし」とは
- 5. 実際の開発現場レベルにする

開発環境について

Editor

- Visual Studio Code
- Settings Sync
 - 設定例(Gistのリンク)

Library

- Node = 9.8.0
- npm = 6.4.1

- Visual Studio Codeは初期設定でも補完が優秀なのでオススメです
- Nodeとnpmが入っていればどのOSでも構いません

npmライブラリとは

JavaScript製のパッケージマネージャー

```
# 例えば
npm install -g web2pdf
```

参考

- https://www.npmjs.com/
- https://www.npmjs.com/package/web2pdf

おもてなしnpmライブラリをつくろう

- よくわからない
 - 。 **ほぼ** package.jsonに書いてあるので1つずつ読んでいく

- ・よくわからない
 - 。 ほぼ package.jsonに書いてあるので1つずつ読んでいく
- 難しい?
 - 。 凝ったことをしなければ 簡単

- よくわからない
 - 。 **ほぼ** package.jsonに書いてあるので1つずつ読んでいく
- 難しい?
 - 。 凝ったことをしなければ 簡単
- 開発で使うにはどんなメリットがあるの?
 - 。 責務分離 → 1つのことに、集中できるようになる

お題

RLを入力するとサイトタイトルを取得するCLI

まずは作ってみる

まずは作りましょう

初期化

npm init

```
{
    "name": "get-title",
    "version": "1.0.0",
    "description": "URLを入力するとサイトタイトルを取得するCLI",
    "main": "./main.js",
    "scripts": {
        "test": "jest"
    },
    "author": "Himenon",
    "license": "MIT",
}
```

CLI用のエントリーポイントを置く

```
get-title
├─ bin
│ └─ cli.js // ZZ
└─ package.json
```

package.jsonにエンリーポイントを記述する

CLI化するポイント

```
"bin": {
   "get-title": "./bin/cli.js"
}
```

npm installしたときに、get-titleとして使える

シンプルに作る

```
// ./bin.cli.js
#!/usr/bin/env node
function main(url) {
  console.log(url);
}
main(process.argv[2]);
```

試してみる

```
$ node ./bin/cli.js https://github.com
https://github.com
```

process.argv=["node", "./bin/cli.js", "https://github.com"]

ローカルにインストールしてみる

```
npm i -g .
```

```
$ get-title https://github.com
https://github.com
```

npm linkを叩くとどこにインストールされているかわかります。

```
/usr/local/bin/get-title -> /usr/local/lib/node_modules/get-title/bin/cli.js
/usr/local/lib/node_modules/get-title -> /path/to/get-title
```

• https://docs.npmjs.com/cli/link

テストを追加する

<u>jest</u>を使う

```
npm i -D jest
npx jest init
# 勝手に初期化してくれうr
```

• <u>ちゃんと使い分けてる? dependenciesいろいろ。 - Qiita</u>

実はこのままだとテストしづらい

```
function main(url) {
  console.log(url);
}
main(process.argv[2]); // ここが走ってしまう
```

main関数の分離をしておく

ファイル分割

```
// ./main.js
function getTitle(url) {
  console.log(url);
exports.getTitle = getTitle;
// ./bin/cli.js
#!/usr/bin/env node
const main = require('../main');
main.getTitle(process.argv[2]);
```

おもてなしnpmライブラリをつくろう 15 / 4

整理

```
get-title
|-- bin
| cli.js # CLIのエントリーポイント
|-- main.js # メインロジック
|-- package.json
```

おもてなしnpmライブラリをつくろう

テストを書く

jestのデフォルト設定で今回は行います。

テストの動作確認

```
// __tests__/main.test.js

describe('メインロジックのテスト', () => {
   test('動作確認', () => {
      expect(1).toEqual(1);
   });
});
```

```
// package.json
"scripts": {
   "test": "jest"
},
```

テストの動作確認

npm run test

```
PASS __tests__/main.test.js
メインロジックのテスト
、動作確認 (4ms)
Test Suites: 1 passed, 1 total
Tests: 1 passed, 1 total
Snapshots: 0 total
Time: 1.135s
```

動作確認が終わってから、ロジックのテストを書くようにすると、気が楽です。

おもてなしnpmライブラリをつくろう

テストできるコードにする

getTitleの返り値を指定する

```
// main.js
function getTitle(url) {
- console.log(url);
+ return 'The world's leading software development platform · GitHub';
}
exports.getTitle = getTitle;
```

テストする

```
const main = require('../main');

describe('getTitleのテスト', () => {
   test('https://github.com/', () => {
     const title = main.getTitle('https://github.com/');
     expect(title).toEqual('The world's leading software development platform · GitHub']
   });
});
```

npm run testで確認する

```
PASS __tests__/main.test.js
メインロジックのテスト
、動作確認 (4ms)
Test Suites: 1 passed, 1 total
Tests: 1 passed, 1 total
Snapshots: 0 total
Time: 1.135s
```

テストを追加する

```
test('http://example.com/', () => {
  const title = main.getTitle('http://example.com/');
  expect(title).toEqual("Example Domain");
});
```

• 今のままだと落ちます

おもてなしnpmライブラリをつくろう 22 / 47

テストが通過するように実際のロジックを書こう

Headless Chromeの<u>puppeteer</u>を使う

npm i puppeteer

- https://github.com/GoogleChrome/puppeteer
- https://pptr.dev/

タイトルを取るロジックを書く

```
const puppeteer = require('puppeteer');
async function getTitle(url) {
 const browser = await puppeteer.launch(); // puppeteerの起動
                                     // ブラウザタブの用意
 const page = await browser.newPage();
                                        // 指定したURLを開く
 await page.goto(url);
 const title = await page.title();
                                        // ページタイトルの取得
 await browser.close();
                                        // ブラウザを閉じる
                                        // タイトルを返す
 return title;
exports.getTitle = getTitle;
```

• Githubの<u>Usage</u>をほぼコピペ

テストを実行する

npm run test

• テストが通過します

おもてなしnpmライブラリをつくろう 25 / 47

CLIの修正をする

bin/cli.js

```
#!/usr/bin/env node
const main = require('../main');

- main.getTitle(process.argv[2]);
+ (async() => {
+ const title = await main.getTitle(process.argv[2]);
+ console.log(title);
+ })();
```

動作確認を忘れずに。

公開する

ざっくりといえば、次の手順を踏めば公開できます。

- 1. https://www.npmjs.com/に行き、ユーザー登録をする
- 2. ローカルでnpm loginをして認証を通す
- 3. 公開したいライブラリのpackage.jsonがある位置でnpm run publishを実行
- ※今回は行いません。

おもてなしを実装

これで終わりではない。

ここからが本番

作ったライブラリに「おもてなし」を実装しよう

ユーザーに対して

- インストール方法
- 使い方
- サンプルコードを用意する

開発者に対して

- 開発環境の構築方法
- テストの方法を書く
- package.jsonを詳しく書く
- ドキュメントやpackage.jsonが充実していることが極めて重要
- 一度作ってしまえば、使い回しが効くので最初だけ頑張ればよい

ユーザーに対するおもてなし

最高のUX

インストール

動くサンプルコード

```
npm install [package]
```

```
const hoge = require('hoge')
hoge();
```

開発者に対するおもてなし

最高のUX

環境構築

テスト



git clone [repository]
npm install
npm start

npm run test

npm run build

何を・どうやって実装するか?

- package.jsonの仕組みをフルに使う
- vscodeの仕組みをフルに使う
- 世の中にある便利なライブラリをフルに使う

```
npm WARN get-title@1.0.0 No repository field.
audited 17651 packages in 4.483s
found 0 vulnerabilities
```

npm iをしたとき



真っ赤

package.jsonの充実化 その1

```
"scripts": {
 "start": "run-p *:watch",
  "clean": "rimraf lib",
  "prebuild": "npm run clean",
  "build": "babel src --out-dir lib --ignore \"src/__tests__/*.test.js\"",
  "build:watch": "npm run build -- --watch",
  "doc": "npx esdoc",
  "lint": "npx eslint src/**/*.js",
  "lint:fix": "npx eslint --fix \"src/**/*.js\"",
  "test": "jest",
  "test:jest": "jest",
  "test:watch": "npm run test:jest -- --watch",
  "prettier": "prettier --write \"**/*.{js,jsx,ts,tsx,css}\""
```

package.jsonの充実化 その2

```
"repository": "git@github.com:Himenon/omotenashi-npm.git",
"engines" : {
 "node" : "<=v6.4.0",
 "npm": "<=6.4.0"
},
"os" : [ "darwin", "linux", "!win32" ],
"directories": {
  "lib": "lib",
  "example": "sample"
"typing": "./lib/index.d.ts"
```

https://docs.npmjs.com/files/package.json

.npmrc / .npmignore

環境設定を迷わせない

- .npmrc
 - 。 プロジェクトの構成管理
- .npmignore
 - o npm packやnpm publishときにignoreするファイル
 - 。 .gitignoreと同じ規則
 - 開発で必要だけど、publishに不要なものを除外するときに使う
- https://docs.npmjs.com/files/npmrc
- https://docs.npmjs.com/misc/developers

トランスパイル

新しい文法を使いつつ、後方互換性を保つ

- babelを使う
 - 。 最新の構文が対応していない場合が往々にしてある
- https://kangax.github.io/compat-table/

Linter / Prettier

「インデント」や「シングル・ダブルクォート」の議論は不毛

- eslint / tslint
- 構文の整形(矯正)
 - 本質的な議論に集中することができる
- prettier
 - 対象となる形式がいろいろ。eslint、tslintと併用する。

```
eslint --fix src/**/*.js
tslint -c tslint.json -p tsconfig.json --fix
```

設定で困ったら"eslint:recommended"、"tslint:recommended"を使う。

型 TypesScript / FlowType

型はカンニングシート

Pros

- 型安全
- vscodeと相性がいい
- JSを含むプロジェクトでも利用可

Cons

- 慣れが必要
- 環境構築

- プロジェクトをどちらに寄せたとしても、OSSを利用しているとどちらも目にする
- TypeScriptはpackage.jsonに型定義ファイルの参照先(types)だけ配置することが可能

サンプルコード

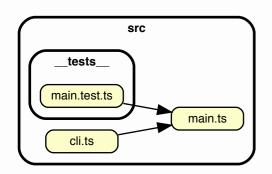
動くコードが真

ビルドした後に、dependenciesを直で書いてインストールする

依存関係を確認する

「孤立したコード」や「循環参照」している箇所などをあぶり出す。構造的に不安定な ところを検知する

https://github.com/sverweij/dependency-cruiser



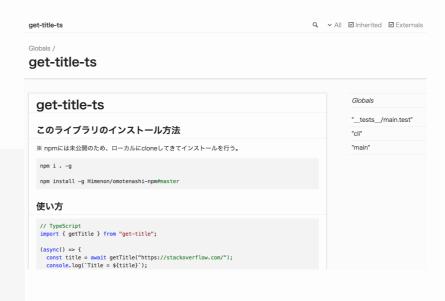
参考:dependency-cruiserを使って依存関係を検証し潜在的なバグを潰す - Qiita

ドキュメント

自動生成する

• esdoc / typedoc

```
# esdoc
esdoc
# typedoc
typedoc --out ./docs/ ./src
```



まとめ

時間が余ればサンプルコードで解説します

まとめ

- 利用者に対してのおもてなし
 - README
 - 。 サンプルコード
 - 。ドキュメント
- 開発者に対してのおもてなし
 - 。テスト
 - npm start / test / build

もっとおもてなししたい

- CI/CD
- 文法チェック
- フォーマッタ
- コミットフォーマッタ
- TypeScript
- マルチパッケージ管理

開発をサポートするライブラリ

紹介しきれないので、リンクだけ

- committint
- pre-commit
- lint-staged
- cspell
- <u>dependency-cruiser</u>
- danger-js
- node-install-local

- meow
- chalk
- generate-changelog
- chokidar
- opn
- portfinder
- <u>update-notifier</u>
- jest-puppeteer

探せばたくさん出てきます。

おもてなしnpmライブラリをつくろう

最後に

- 小さいうちに先手を打つこと
 - 。 後から導入するものが大変なものもある
- 開発のUXを損ねないように、ドキュメントの整備を行う
 - 。 暗黙的に使うコマンドに処理をフックさせておくのも手
- コードの保守がもっとも大変。
 - 。 便利なツールをどんどん使って試していく

おわり